べた。

このほか、シラク大統領はさきの仏露首脳会談の内容を紹介。シラク大統領がプーチン大統領に対し、日露関係の改善がロシアにとって重要な利益になると指摘した際、「プーチン大統領も、その点は強く認識しているようだった」と説明した。

別れ
まらず

張して具体的な進展のないまま協議を終えた。次回協議の日程も決まらないなど、双方が求める紛争の早期解決は不透明な情勢だ。協議終了後、日中双方は報道発表を行い、拡大を続ける日中貿易の基調を評価、「友好関係の大局」に影響を与えないよう事態の拡大防

産経抄

写真週刊誌「FOCUS（フォーカス）」休刊の報に〝戦友の臨終〟といった感慨をおぼえる。べつに深いつきあいがあったわけではないが、「敵ながらあっぱれ」といった時代の読み方が少なくなかったからだ ▼むろん「のぞき趣味」や「スキャンダリズム」といった批判や非難はあった。しかし同誌に掲載された数々のスクープ写真は、確かに一つの時代をつくった。昭和五十年代終わりから十年余りである。表紙も編集もあかぬけていて、写真に添えられた文章も小憎らしくしゃれていた

▼感慨をおぼえたのは、休刊を発表した新潮社松田宏取締役の「残念なことにスクープをしても読者がついてこなくなった。スクープは部数に関係なかった」という説明に対してである。そうなのだ、新聞でも同じことがいえる。懸命にスクープをしても読者が増えもしない状況はたまらなくさびしい

▼「ビジュアル」時代だという。ビジュアルとは「視覚の」とか、「目に見える」といった意。「ビジュアル・キャプチャー」とは、「視覚的効果で読者や消費者を獲得すること」（『現代用語の基礎知識』）らしい。「FOCUS」

■伊能忠敬　江戸時代後期の地理学者・測量家。1745年、上総国（千葉県）に生まれ、家業の酒造業などを営んでいたが、50歳をすぎて幕府天文方に入門。1800年に北海道から九州まで全国の測量を始め、幕府の援助を受けた測量隊は16年間に4万4千キロを踏破した。

伊能は1818年に73歳で死去するが、地図作製を引き継いだ高橋景保が1821年に「大日本沿海輿地全図」（伊能図）として完成した。

幕府は地図を秘蔵していたが、幕末になってドイツ人医師のシーボルトが欧米に紹介。測量技術が優れていたため明治維新後も利用され、明治政府が発行した全国地図の基本図になった。

完成させた。大図は日本列島を二百十四に分け、縮尺三万六千分の一で描いたもの。地図の原本は江戸末期の文政四年（一八二一年）に幕府に納められたが、明治初期の火事で焼失。東大図書館に保存されていた副本も関東大震災で焼失。中図、小図の写しは現存しているが、大図は関東地方など約六十枚の写しが国内にあるだけだった。

発見された写しは一枚が畳一枚分の大きさで、二百年前の海岸線や民家、「法隆寺」などの寺社、「大坂城」などが描かれている。研究会では「伊能の足取りは日記以外は不明だったが、写しを見れば詳細に確認できる。当時を知る資料としても貴重」と話している。

写しには「第一軍管」「第三軍管」など軍の管轄を示す記載もあり、渡辺代表理事は「日本最初の国土地図を作った陸軍の測量機関が明治十年前後に、伊能家にあった副本を写したもの」と分析。これが何らかのルートで米国に渡ったとみられる。

米国議会図書館地図部によると、「明治三十年（一八九七年）以降には大図を購入した記録はなく、それ以前に入手したとみられる」という。

西川治東大名誉教授（人文地理学）は「学問的に大発見。非常に詳細な大図が見つかり、二百年前の日本の様子を現在と比較できることは画期的」と評価している。

ーに次ぐ金融セン　年、カナリーワーフの就業者
ではかなわない。　人口は三万を超え、テナント